

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	第4次産業革命・Society5.0、イノベーション	
氏名:	永濱利廣	株式会社第一生命経済研究所主席エコノミスト
	<b>質問事項</b>	<b>記述式回答</b>
	予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)①	2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	生産年齢人口の減少が今以上に進み、労働力不足が今以上に深刻になっている。また、高齢化率の上昇により、社会的な安全性の問題が高まっている。
	目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)②	また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	本格的なICT活用が製造業だけではなく、人を相手にする非製造業でも進み、労働生産性を向上させる必要がある。自動運転自動車の普及により交通の安全性を高める必要がある。
	今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2)	上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	税制やGPIF・日銀の株購入等にメリハリをつけること等により、企業のICT投資や自動車の自動運転開発を積極的に進めた企業により恩恵が及ぶ仕組みを構築すべき。

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日~11月11日)

<b>分野:</b>	<b>少子高齢化、社会保障</b>
<b>氏名:</b>	永濱利廣 株式会社第一生命経済研究所首席エコノミスト
<b>質問事項</b>	<b>記述式回答</b>
<b>予測される経済・社会的な構造変化(2030年)</b>	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	2022年から団塊世代の後期高齢者入りが始まり、社会保障費の膨張が進む可能性がある。
<b>目指す経済・社会の姿(2030年)</b>	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	世代間の支えあいでは社会保障制度の維持可能性が低下するため、世代間の支えあいができるような社会保障の再構築がなされるべき。
<b>今後取り組むべき構造改革(2016年~2030年)</b>	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	ジェネリックの利用率を一刻も早く欧米並みに高める。市販薬の処方を保険適用から除外する等、医療保険の適用範囲を狭める。過剰診療を抑制するために窓口負担を増やす。後期高齢者の自国負担を2割にする。マイナンバーを純資産の把握まで拡張し、裕福なシニアに応分の負担をしてもらう。

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日~11月11日)

分野:	人材育成・働き方
氏名:	永濱利廣 株式会社第一生命経済研究所首席エコノミスト
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	労働力人口のさらなる減少により、人手不足が今以上に深刻になり、より高い一人当たり生産性の向上が求められる社会になっている。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	人手不足を解消すべく、就業希望の非労働力人口が一人でも多く活躍できる労働環境を整える。
今後取り組むべき構造改革(2016年~2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	待機児童や介護施設の入所待機者を一刻も早く解消すべく、インフラ整備や保育士・介護士の人手不足の解消を進める。そのためには、外国人労働者の今以上の受け入れも必要。超長期国債発行などにより資金を調達し、公立教育施設の無償化なども進められれば、人材育成の向上のみならず、将来不安緩和や少子化対策にも結びつく。また、現在先送りされている脱時間給や正社員の解雇ルールの明確化を進めることにより、同一労働同一賃金を進め、労働市場の流動化を促す。

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	地域経済
氏名:	永濱利廣 株式会社第一生命経済研究所首席エコノミスト
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	都市部以上に人口減少が加速し、これを放置すれば、人材不足などにより地方の産業が成り立たなくなる恐れがある。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	人口流入などにより、その地域の強みを生かした独自の産業が成りたち、地域での雇用や生活の場が持続できる。地域の中小企業のグローバル展開がより進展する。
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	地方経済の優位性が高い観光や第一次産業、エネルギー産業の生産性を上げる必要がある。観光では更なるビザの要件緩和や各地域の観光PRやインバウンド受け入れ態勢の強化が必要。第一次産業は農地法の改正等により大企業がより参入しやすい環境を作り、オランダ等をモデルによりグローバルな販路開拓を促すべき。エネルギーは再生可能エネルギーの推進がより必要となるし、何よりも人口減少の対策としては、豪州のように地方で外国人留学生を大量に受け入れる態勢を整え、将来的には移住ビザの発給要件を緩和できるような仕組みがほしい。地方の中小企業のグローバル展開の支援強化も必要。

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野: <b>社会資本</b>	
氏名:	永濱利廣 株式会社第一生命経済研究所首席エコノミスト
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	既に進み始めている社会資本の老朽化が進行し、生活の安全性が脅かされる状況が予測される。一方で新興国ではより社会資本整備のニーズが高まっている。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	一刻も早い老朽化インフラの整備や国の供給能力を高める最先端の社会資本整備が整う必要がある。一方で海外の社会資本整備にも貢献すべき。
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	超長期国債による資金調達やPPP・PFIなども有効に活用し、国内の社会資本整備を前倒しで行うべき。人手不足を補うために、外国人労働者の活用を今以上に進める。海外の社会資本システムを積極的に受注できれば、日本企業のみならず国際的な環境問題などにも貢献する。

政策コメンテーター報告(第2回)(意見照会期間:2016年10月31日～11月11日)

分野:	マクロバランス
氏名:	永濱利廣 株式会社第一生命経済研究所首席エコノミスト
質問事項	記述式回答
予測される経済・社会的な構造変化(2030年)	(300字以内で回答してください)
(1)① 2030年には、各分野において、どういった経済・社会的な構造変化が予測されるでしょうか。	社会保障の効率化が進まなければ政府の投資超過が改善しない一方、企業の期待成長率低下で企業の貯蓄超過が持続。家計についても、シニアの労働参加が進まなければ、シニアの貯蓄切り崩しで家計貯蓄率がマイナスに転じる危険性がある。
目指す経済・社会の姿(2030年)	(200字以内で回答してください)
(1)② また、そうした構造変化を踏まえ、我が国が目指す経済・社会の姿はどうあるべきでしょうか。	社会保障改革により政府の投資超過が縮小する一方で、企業の期待成長率の高まりで企業の貯蓄超過が減少する。他方、家計もシニアの労働参加進展等で貯蓄超過を維持し、マクロバランスで見ても適度な貯蓄超過(経常黒字)が維持される。
今後取り組むべき構造改革(2016年～2030年)	(300字以内で回答してください)
(2) 上記(1)で挙げられた経済・社会の姿を実現するためには、足元から今後に向けてどのような構造改革に取り組むべきとお考えでしょうか。基本的な考え方や具体的な方法がございましたらご記載ください。	ワイズスペンディングな財政政策や労働市場改革、第四次産業革命などにより潜在成長率を高めて税収を増やす一方で、緩やかな社会保障改革により歳出を抑制し、政府の投資超過を縮小させる。企業の貯蓄超過を減らすべく、内部留保を賃上げや前向きな投資に積極的に使う企業の株をGPIFや日銀が積極的に保有する仕組みもほしい。シニアを積極的に雇用する企業へのインセンティブもあれば尚可。